

る“ふる里の祭り”

“ふるさとの祭り”が行なわれ、笛や太鼓の音
 についてご紹介します。



重量感あふれる東町の御輿

上町の御輿は行く先々で“水かけ”の出迎えが



子ども御輿も練り歩く



本町では女性がハッスル

この祭は、10世紀後半に京都の八坂神社(疫病除けの神、午頭天王を主祭神とする神社)と、同じ八坂にあった祇園寺(観慶寺)が次第に接近合体し「夏越しの疫病はらい」の行事として始まったと言われ、その後、年中行事として行われるようになったそうです。

横芝でこの祭りが始まったのは、江戸時代後期の化政期(1804年〜1830年)で、旧暦の6月15日を本祭りとし、その前夜を宵祭りとして行われてきました。宵祭りには、各地区ごとに御輿や山車が洗い清められ、それぞれの御仮屋に安置。そして本祭りの日に、本町の八坂神社へ各区の役員代表が御輿とともに参集して「家内安全・産業の発展・子孫繁栄」などを祈願した後、御輿や山車が町内を練り歩きます。近年では、8月の第一土曜日に宵祭りが、日曜日に本祭りが行われており、宵祭りにも御輿が練り出すようになりました。

今年も8月2日・3日の両日、若者たちの威勢の良い掛け声とともに伝統の「祇園祭り」が行われ、日曜日の夕方、サビア前で3地区の御輿が合流したところで「祭り」は最高潮に達しました。そして、揃って横芝駅まで練り歩く時には、道路脇を埋め尽くした見物客からも「ワッショイ、ワッショイ」のかけ声が連呼。2日間にわたる「祇園祭り」で、地域のみなさんの絆は更に深まったようです。

祇園祭り

〜1000年の伝統を偲ぶ
 疫病除けの夏祭り〜



子どもたちのお囃子に乗って